

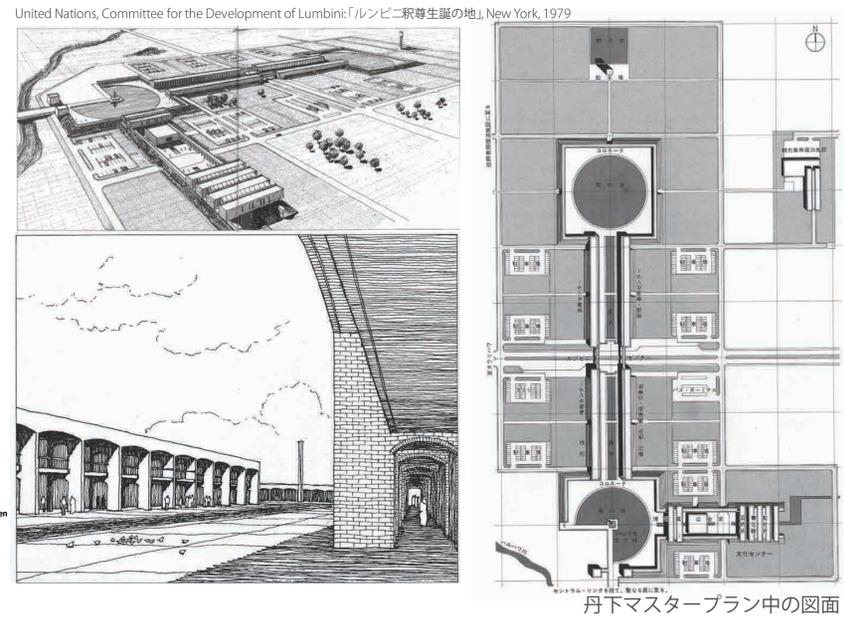
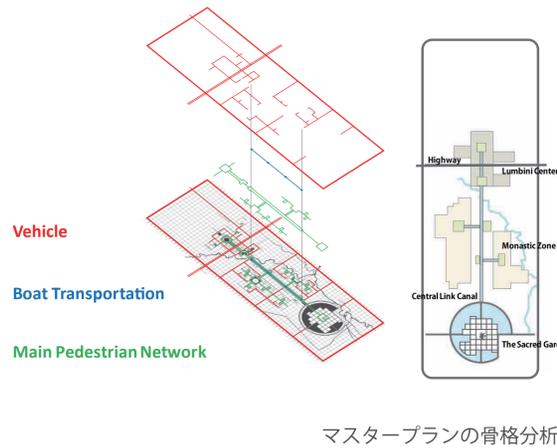
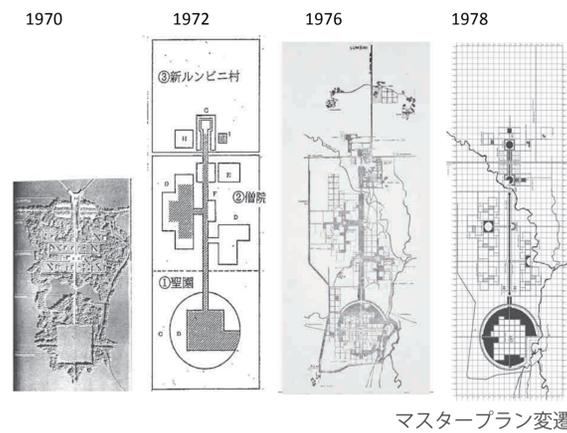


1997年ユネスコの世界文化遺産に登録された「仏陀の生誕地ルンビニ」には、当研究室の創立者である丹下健三先生がその整備方針をまとめたルンビニマスタープラン(1978年)があります。しかし長年に渡る整備事業の遅れにより、マスタープランを無視した無秩序な開発や、当時想定していなかった問題が生じてきました。

私たちはユネスコの依頼により西村教授がリーダーを務める国際専門家チームの1つとして丹下マスタープランの再解釈を通し、現在進行中の整備開発事業に対して助言を行ったり、今後の整備方針を検討したりしています。

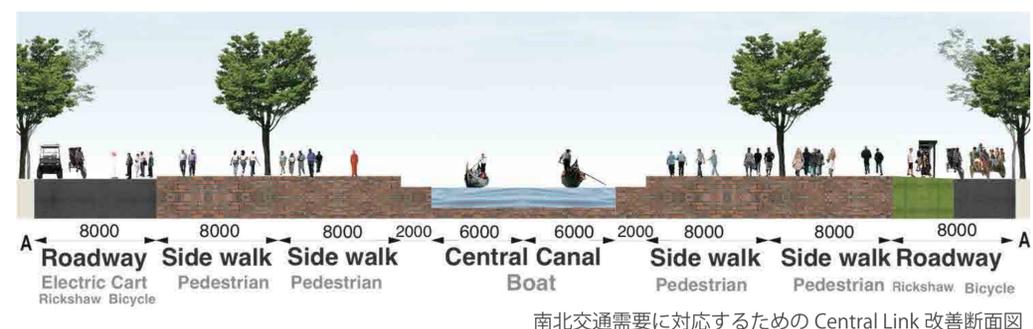
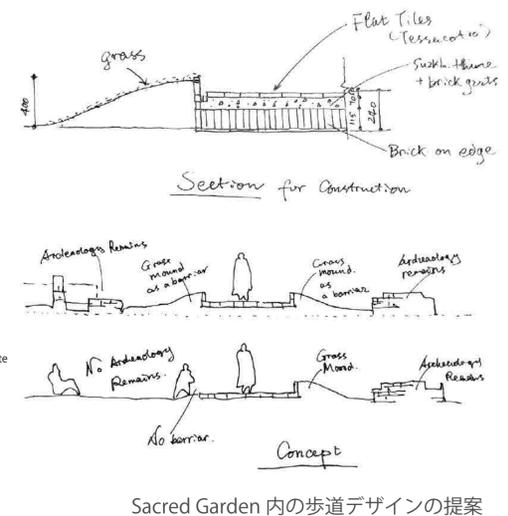
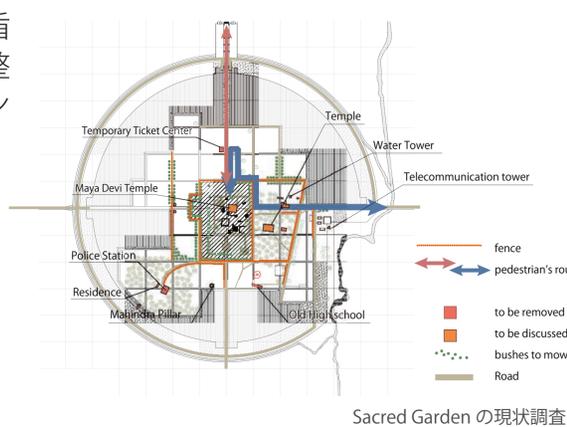
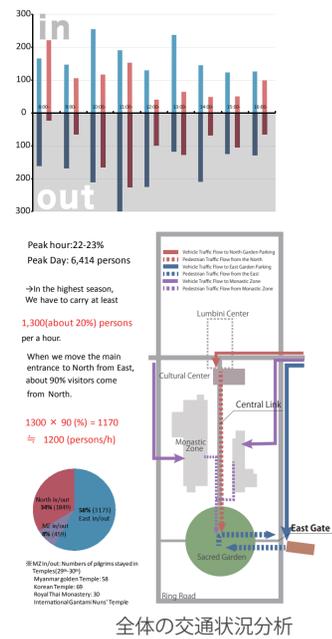
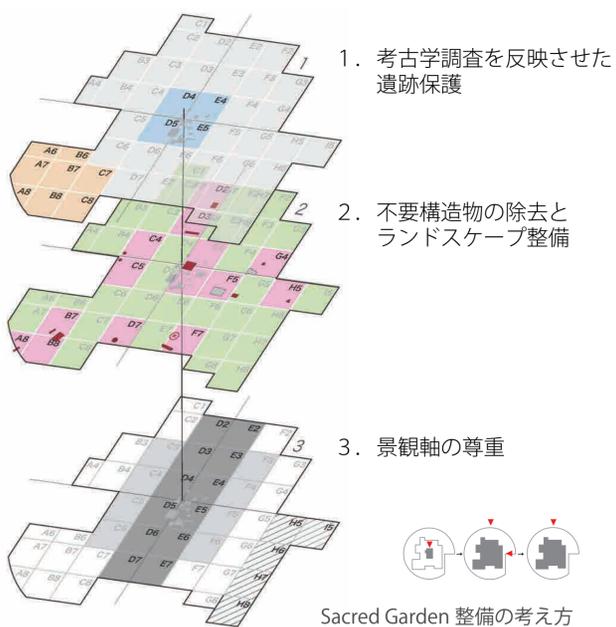
○ 丹下マスタープランの再解釈 Review of Kenzo Tange's Master Plan

散逸資料の収集や当時の関係者ヒアリングを行い、丹下マスタープランが最終形に辿り着くまでの変遷を追うことで、観光需要や経済状況が変化した現代においても適用可能な設計原則及び全体骨格を明らかにしました。



○ 整備事業への助言 Reorientation of new projects under construction

丹下マスタープランを丁寧に分析することで見えてきた現状との矛盾や、それによって生じている問題を調査し、具体的な Sacred Garden 整備事業の細かな助言および中長期的な全体計画と結びつけたマネジメント方法などを提案しました。



○ 今後の整備方針立案 Towards Regional Conservation Planning for Buddhist Sites

ルンビニ周辺には釈迦(仏陀)由来の仏教遺跡が広域的に散在しています。中には世界遺産の暫定リストに登録されている貴重な遺跡もありますが、現在包括的な保全計画がありません。将来的にこの地域全体の観光活用および保全が適切に図られるよう、潜在的な開発エリア及び規制区域の検討を進めています。

